

実践報告

小学校英語活動から中学校英語教育への  
移行時における指導上の問題

丸 山 千亜紀\*

Teaching Problems of the Shifting Gap Between Elementary School English  
Activities and Junior High School English in the New Course of Study in 2008

Chiaki MARUYAMA

【要 約】

平成 20 年に小学校学習指導要領が改訂され、平成 23 年度より小学校 5、6 年生に外国語活動が完全実施される。中学校では、新学習指導要領において週 3 時間の授業時間数が、週 4 時間に増加するなど、小学校で培われた力をさらに生かす指導法を期待され、大きな改善を迫られている。本論では、これから実施される小学校英語活動がどのような形で導入されるか、また小学校英語活動から中学校英語教育に移行したときに起こる中一ギャップについての問題点について把握し、小学校から中学校へあがる時のスムーズな英語学習の移行とこれからの中学校英語教育がどうあるべきなのかを考察する。

---

\* 阿波市立吉野中学校

## 1. 小学校英語活動の目標と中学校英語

### (1) 小学校外国語活動の目標

#### ①目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

#### ②第5学年における目標

外国語をはじめて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達とのかわりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。

#### ③第6学年における目標

第5学年の学習を基礎として、友達とのかわりを大切にしながら、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。

### (2) 小学校英語活動と中学校英語教育の違い

	小学校	中学校
目的	コミュニケーション能力の素地	コミュニケーション能力の基礎
理念	英語嫌いをにつくらない！ ・ 体験を通して素地を体得 ・ 楽しむ ・ 身近な生活が中心 ・ 「話すこと」「聞くこと」の音声中心	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能のスキル向上を図る
方法	・ 英語活動 ・ 体を使い、遊びに訴える ・ 歌、ゲーム、クイズなどの活動中心	・ 英語学習 ・ 知に訴える ・ 説明やドリル中心
内容	・ 学習指導要領に基づいて作られた英語ノートは参考程度に使用され、後は児童の実態に応じて内容が構成される ・ 子どもがやりたいことが中心 ・ ゲームに必要な言語活動 ・ 身の回りの具体的な英語	・ 学習指導要領に示されている内容 ・ 教師が「させたい」ことが中心 ・ 覚えるための言語活動
評価	・ しない	・ 定期テストなどを通じて、生徒の英語力を評価する

ここで理解しておきたいのは、小学校で目的とされている「コミュニケーションの素地」とは、英語を使えてコミュニケーションを図ることのできるレベルまで期待されていないということである。小学校では遊び感覚の英語活動を通じて、他者とコミュニケーションを図ることのできる態度を育成しようとするのが目的であることである。

### (3) 小学校英語活動で扱われる主な表現

これまでも塾等で英語を学んでいる小学生もいたが、新学習指導要領の実施に伴う小学校での外国語活動の導入は、従来の中学一年生と違い、初めて英語を学ぶ中学一年生ではない。したがって、中学校の英語教師は、小学校から進級してくる新一年生が、どのような英語の表現や単語に慣れ親しんで入学してくるのかを把握し、指導計画を作成しなければならない。

では、小学校での外国語活動で、どんなことを学んでくるのだろうか。小学校新学習指導要領解説に記載されているコミュニケーションの場面例についてあげてみる。

#### <コミュニケーションの場面の例>

##### ア 特有の表現がよく使われる場面

##### ・ あいさつ

例 1 A: Hello, How are you?

B: I'm fine, thank you.

例 2 A: Nice to meet you.

B: Nice to meet you, too. など

##### ・ 自己紹介

例 Hi, my name is Taro. I like sushi. I don't like tennis. など

##### ・ 買い物

例 1 A: Do you have blue shoes?

B: Yes, I do./ No, I don't.

例 2 A: What do you want?

B: Banana, please. など

##### ・ 食事

例 A: What would you like?

B: Soup, please. など

##### ・ 道案内

例 A: Where is the post office?

B: Go straight. Turn left/ right. など

イ 児童の身近な暮らしにかかわる場面

- ・ 家庭での生活

例 A: What time do you get up?  
B: I get up at 6:00. など

- ・ 学校での生活

例 A: On Monday, I study Japanese, math, and science. など

- ・ 地域の行事

例 Let's clean the beach. など

- ・ 子供の遊び

例 1 Rock, scissors, paper. One, two, three.

例 2 I can play Kendama. など

＜コミュニケーション働きの例＞

ア 相手との関係を円滑にする

- ・ 礼を言う

例 Thank you. など

- ・ ほめる

例 That's right. Good. など

- ・ 丁寧表現

例 A: What would you like?  
B: I'd like pizza, please. など

イ 気持ちを伝える

- ・ 気持ちをつたえる

例 A: How are you?  
B: I'm fine/ happy. など

ウ 事実を伝える

- ・ 事実を伝える

例 A: What's this?  
B: It's a rabbit. など

エ 考えや意図を伝える

- ・ 発表する

例 1 I like soccer.

例 2 I want to be a soccer player. など

オ 相手の行動を促す

- ・ 道案内をする

例 Go straight. Turn right. など

(4) 『英語ノート』の性格

新学習指導要領により 2011 年から小学校 5、6 年に週一時間の英語活動が導入されるのを  
受け、英語ノートが作成された。これは中学校の教科書のように使用することを義務づけられ  
たものではない。あくまで小学校の学級担任が、児童の興味・関心のある話題・題材をもとに、  
児童が思わずやってみたいと思えるような教材を使うことが主となっている。しかし、その内  
容も思いつきで指導するものであってはならず、常に系統だったものでなければ意味がない。  
英語ノートはカリキュラムがまだ作成されていない学校や担任教師の指導の指針として作られ  
たものである。



以上のように中学校入学の段階で、かなりの英語表現や英単語に生徒は慣れ親しんで入学し  
てくることがわかる。けれども、ここで注意しておかなければならないのは、小学校英語活動  
は、あくまで慣れ親しむことが目的であって、児童一人ひとりがふれた英語を身につけて入っ  
てくるわけではないことを理解しておくことが必要である。

(5) 英語活動の具体例

児童の興味・関心を基盤に、小学校英語活動では、以下の 4 つの段階を踏んで活動が設定さ  
れる。

(ア) 聞く活動

(イ) 機械的に繰り返し言い、音に慣れる活動

(ウ) 記憶したり自分のものにしたりする活動

(エ) 自分の意思で言葉を選んで発話する活動

これらの活動は、以下のような方法で展開される。

① 聞く活動

- ・ おはじきゲーム：指導者の発音する語などを聞き取るゲーム
- ・ 指差しゲーム：指導者の発音する語などをペアで競って聞き取る
- ・ ビンゴゲーム
- ・ カルタ取りゲーム

② 繰り返し言い、音になれる活動

- ・ キーワードゲーム：ペアで聞き取り、繰り返して言うことを競うゲーム
- ・ ステレオゲーム：数名の児童がいっせいに言う語などを、他の児童が聞き取るゲーム
- ・ チャンツ：英語特有のリズムとイントネーションに合わせて唱和する歌。ラップのようなもの

③ 記憶したり自分のものにしたりする活動

- ・ 集中力ゲーム：グループで指導者が言う単語を記憶するゲームである。
- ・ ミッシングゲーム：黒板に貼られた絵カードでなくなったものを当てるゲーム
- ・ あなたのカードは何？：何人かの児童が前に出てきて、自分が渡されたカードが何かを、他の児童のカードをヒントに当てるゲーム

④ 自分の意思で言葉を選んで発話する活動

これまでの機械的な活動でなく、自分の思いを発話する活動で習った表現をインタビューゲームのような形で、友達と質問しあうなどの活動。

以上のように、今までは中学英語でするゲーム等が生徒にとって新鮮であったものが、中学校入学時には小学校ですでにし尽くされて子供たちは入学してくる。

## 2. 英語学習と中一ギャップ <アンケート結果>

### (1) ローマ字テストと中一ギャップ

つぎの<ローマ字得点表>は、徳島県A市で、小学校英語活動を週一時間うけた中学一年生に、ローマ字テストを行った結果である。A市では、すべての小学校で1年生から英語活動を行っている。採点方法はヘボン式、訓令式を問わず、基礎的なものを「読み」と「書きとり」、各11問ずつ出題し、計22問で22点満点とした。

全体の平均は約16点で、小学校4年生の国語の指導書には、ローマ字導入は4時間しかないのにも関わらず、ほとんどの生徒がよくできていた。これは、4年生から6年生の間に国語

の授業以外で総合学習の時間において、パソコン使用時にローマ字入力をさせている結果であると見られる。

<ローマ字得点表> (計339名)

平成20年

点	人数	点	人数	点	人数	点	人数
22	107	16	7	10	4	4	2
21	72	15	7	9	3	3	3
20	29	14	4	8	6	2	3
19	30	13	4	7	2	1	5
18	10	12	3	6	6	0	18
17	6	11	5	5	3		

## (2) 小学校におけるローマ字の導入状況

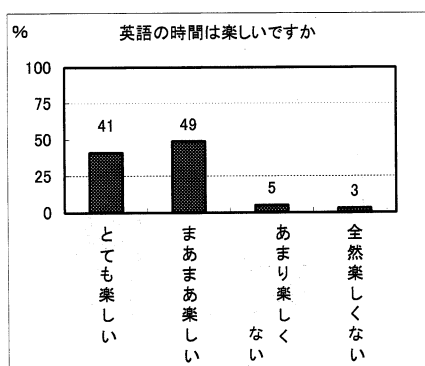
A市10校の4, 5, 6年生担任教師から聞き取り調査(平成20年)

		4年生	5年生	6年生
国語の授業にローマ字を取り入れる時間	時間数(平均)	6時間	0.6時間	2時間
国語の時間以外でローマ字を使う機会	時間数(平均)	8時間	9時間	12時間
	どのような場面で児童がローマ字を使う機会があるか	総合学習の時やその他の教科でパソコン入力時	総合学習の時やその他の教科でパソコン入力時	総合学習の時やその他の教科でパソコン入力時

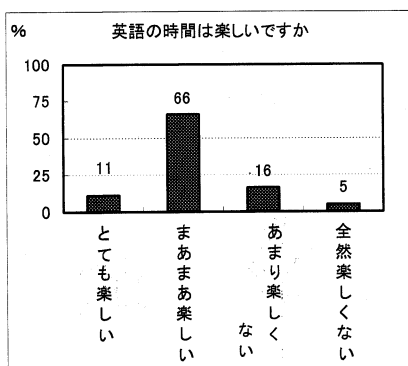
## (3) ローマ字についての比較

中学校英語学習入門期に、ローマ字の得意な生徒と不得意な生徒で、どのような違いがあるかを、以下に考察してみる。

ローマ字22点満点

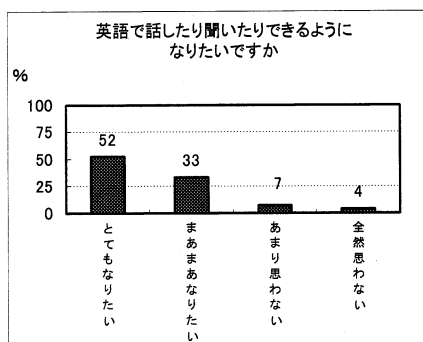


ローマ字0点

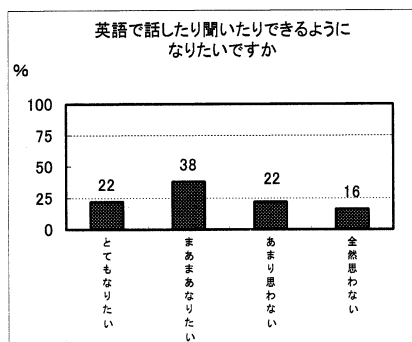


「英語の時間が楽しい」と答えた生徒は、22点満点が約90%、0点の生徒が約77%であり、約13%の開きがある。また「とても楽しい」と答えた生徒の差は、約30%である。

ローマ字22点満点

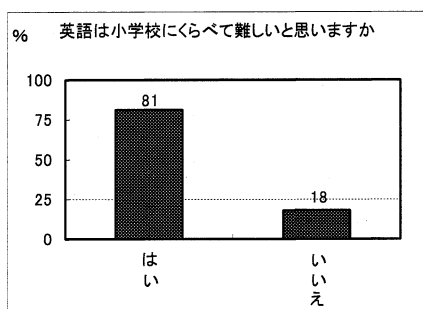


ローマ字0点

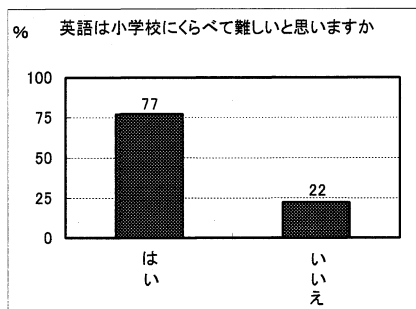


「将来英語で話したり、聞いたりできるようになりたいか」という質問について、22点満点の生徒では、「なりたい」約85%、0点の生徒では約60%で、肯定的な回答において、約25%もの差がある。

ローマ字22点満点

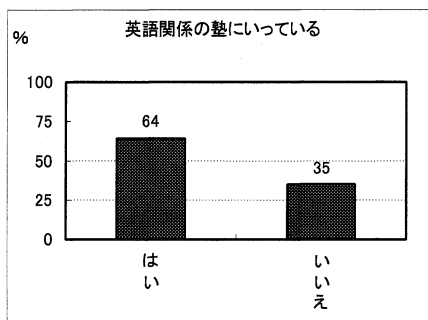


ローマ字0点

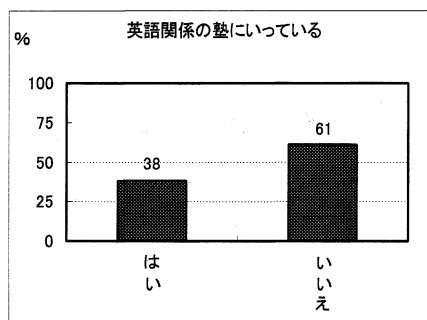


ローマ字テスト0点の生徒の方が、「小学校にくらべて、中学校の方がむずかしい」と感じていると生徒が多いと推測されたが、今回の調査結果では、「いいえ」と答えている生徒は、ローマ字テスト22点の生徒よりも、0点の生徒の方が多いという結果を得た。

ローマ字22点満点



ローマ字0点



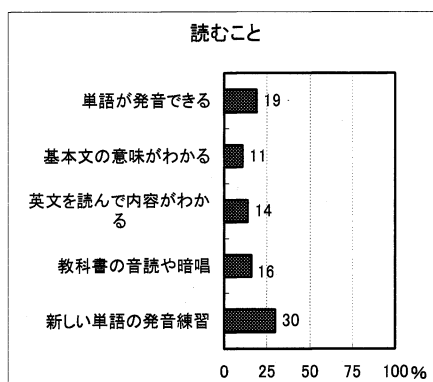


ローマ字テスト22満点の生徒の通塾比率は約64%、0点の生徒は約38%であり、22点満点の生徒と0点の生徒とでは、約26%も差がある。ローマ字テスト満点の生徒と0点の生徒とのローマ字についての学力格差は通塾に関係していると思われる。

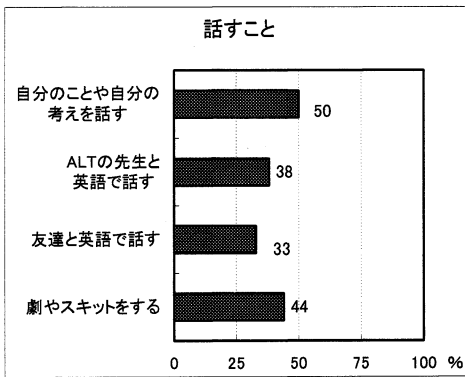
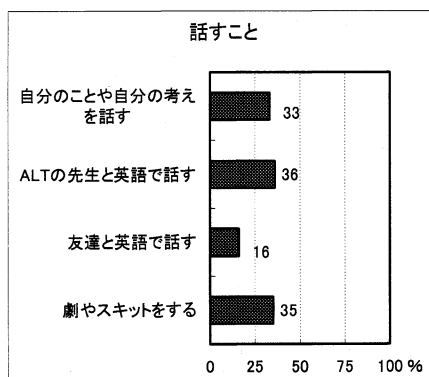
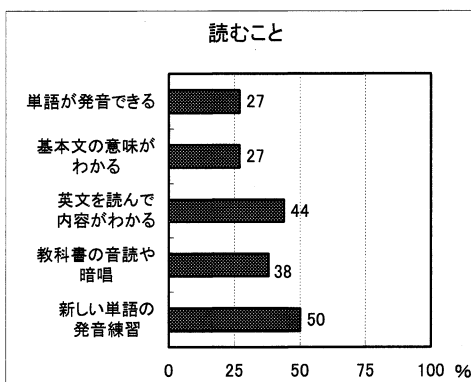
#### (4) 中学校の英語の勉強で困っていることに関する比較

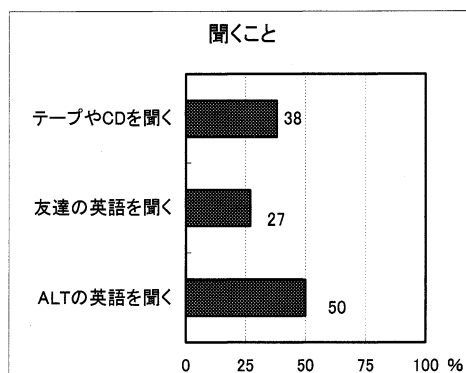
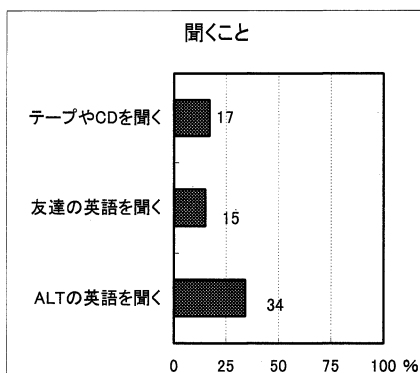
「読むこと」「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の4領域において、英語学習において、どんな場面で困っているかを聞いてみた結果である。全体的に0点の生徒が22点満点の生徒に比べ、困っている割合が多く、特に「書くこと」についての領域で、特にその割合が高いことがわかる。

ローマ字22点満点



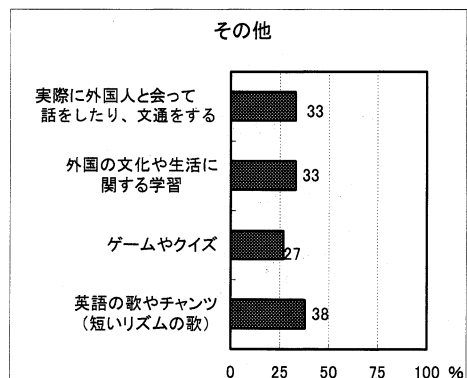
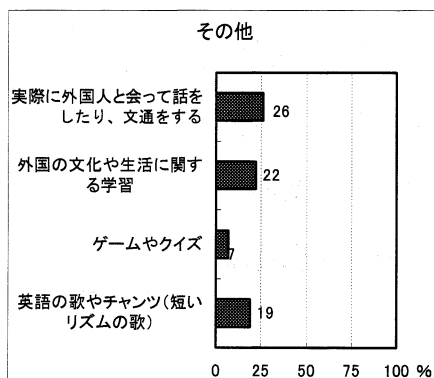
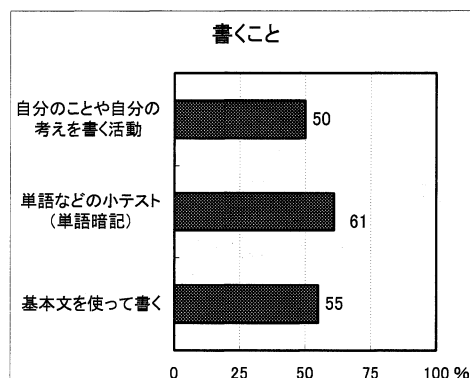
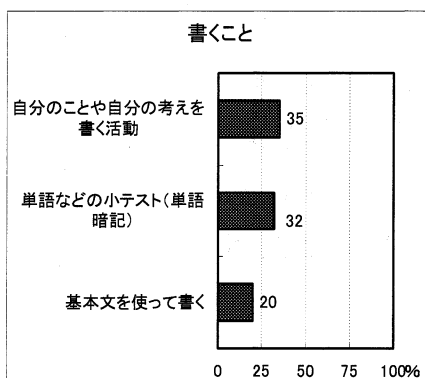
ローマ字0点





ローマ字 2 点満点

ローマ字 0 点

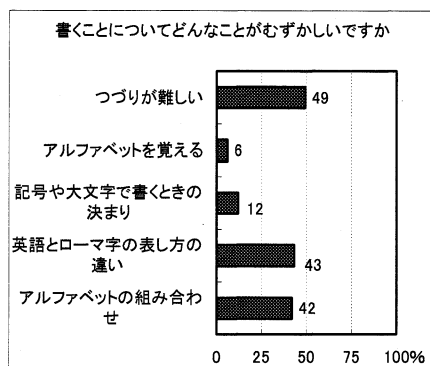


#### (5) 書くことについての比較

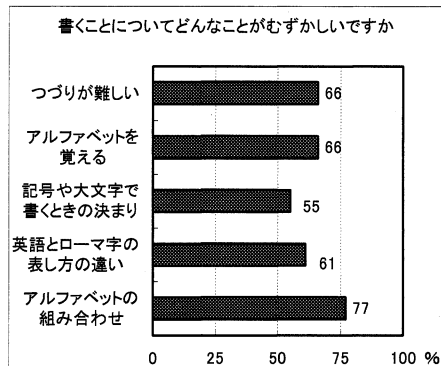
下の表から圧倒的に、書くことに関して、ローマ字が不得意な生徒は、書くことに関して困難を感じている生徒が多い。このことから、中学校入学以前にローマ字の習得が、入学後

の「書くこと」の学習を容易にすると考えられる。

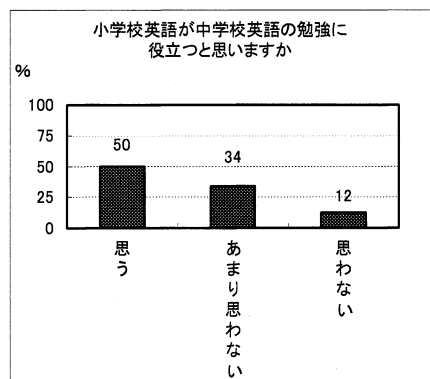
ローマ字 2 点満点



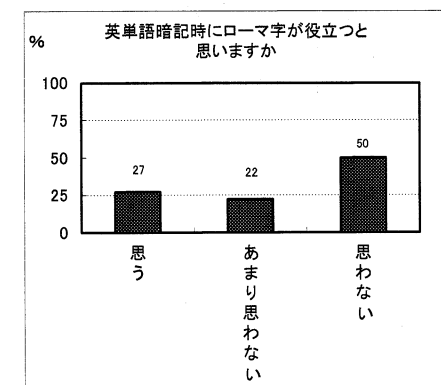
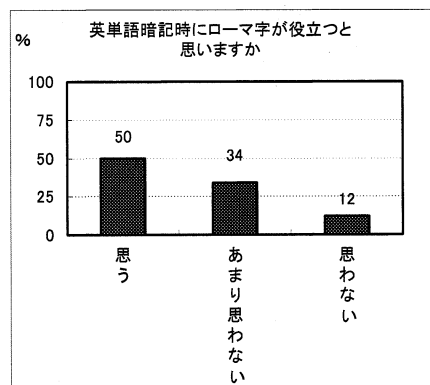
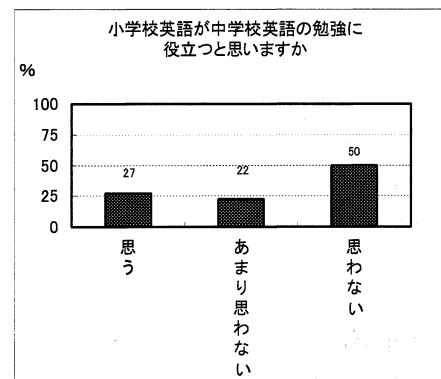
ローマ字 0 点



ローマ字 2 点満点



ローマ字 0 点



以上の結果からわかるように、小学校から中学校入学時にかけてローマ字指導の徹底が、スムーズな中学校英語への移行につながるものと考えられる。中学校英語教師は、入学時にどの程度ローマ字に習熟・理解しているかをあらかじめ調査しておく必要があると思われる。

### 3. 今後における課題と方向

小学校英語活動導入は、中学校英語教育の変換期であるといわれている。今までの生徒のように“初めて”英語を学ぶことの喜びを持って入学してくる子供はいない。英語でコミュニケーションを図ることに慣れ親しんだ子供たちが入学してくるのである。

本論でわかったように、小学校英語活動では、生徒はかなりの英語の表現や語彙にふれて入学してくることがわかった。また入学時に英語の学習でつまづく要因の一つはローマ字理解にあるということも理解できた。中学校では、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「読むこと」の4領域の力をバランスよく、また今まで以上の力をつけて卒業させるという期待がされている。そのためには、中学校入学時に生徒がどのような力を持って入学してくるのかを把握し、その持っている力をどのように中学時に伸ばしていくかという指導力がこれからの中学教師には求められている。

中学教師にとってプレッシャーは大きくなったが、期待されている分やりがいも大きくなった。これからの時代を担う子供たちのために、英語教育を通じて生きる原動力となるような教育のできる教師でありたいと思う。

#### 参考・引用文献

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| ・小学校学習指導要領            | 文部科学省 |
| ・小学校学習指導要領解説 外国語活動編   | 文部科学省 |
| ・小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編 | 明治図書  |
| ・中学校学習指導要領            | 文部科学省 |
| ・中学校学習指導要領解説 外国語活動編   | 文部科学省 |